

重種子馬の総指伸筋腱断裂を疑った1例

佐々木直樹^{1)†} 高桑 潤¹⁾ 関塚次郎²⁾ 山田明夫¹⁾

1) 帯広畜産大学臨床獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

2) 十勝農業共済組合中部事業所 (〒080-2331 帯広市基松町基線35-12)

(2007年5月31日受付・2008年11月17日受理)

要 約

北海道十勝地区で出生した重種子馬に、出生直後より起立が不自由であり、左側腕節外側面に直径3cmの腫脹が認められた。生後15日目の超音波検査において、左側腕節前面の腱実質が確認されず、片側性総指伸筋腱断裂と診断された。圧定包帯によって歩様は改善し、最終的に生後270日目に市場取引された。本症例はわが国で最初の報告例である。——キーワード：総指伸筋腱断裂，馬，超音波診断。

----- 日獣会誌 62, 542～544 (2009)

† 連絡責任者：佐々木直樹 (帯広畜産大学臨床獣医学研究部門大動物外科学研究室)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX0155-49-5378 E-mail : naoki@obihiro.ac.jp